3年生「ボランティア実践」水元さん（社会福祉法人　福成会生活介護事業あいあい施設長）４．２２

●今回の講演を聞き、「障害」についてさらに深く学ぶことができました。障害とは個人の側にあるのではなく、整備・配慮がされていない社会の側にあるということを改めて認識することができました。個人の問題とする医学モデルと社会の問題とする社会モデルを表すイラストが印象的でした。これは平等と公正を表すイラストで、通じるものを感じました。身体的に障害があっても社会が配慮できれば、工夫すれば障害は壁にはなりません。椅子をどう分け与えるか、簡単そうに見えて意外とすぐには社会モデルの考えには辿り着けないのではないかと思いました。2年次に学んだことがさらに深掘りされ、知識として身についただけでなく、自分の考えとして引き出せるようになりました。知識が知識としてで終わるのではなく、自分のものとなったことを感じることができました。合理的配慮とはどうしたら良いのか、私はこのことに注目したいと思います。グループワークを通して、言語、ジェスチャーの重要性に気づいたことで視覚、聴覚が大きな役割を果たしていると身をもって感じました。日常において2つの大きな役割が果たされないとなると障害の壁ができてしまいます。社会にどんな配慮があれば良いのか考えれば思いつくのに実現されていない現実があり、もどかしく思いました。私は目が悪く、ある意味、障害を持っています。例えば授業で眼鏡を忘れても先生の声があれば問題はありません。また、席が前方だったら見えます。このように別の方法で補えます。相手に対して自分は何ができるかを考えるのも社会の一員としてやるべきことではないかと思います。自分にできることを探すのは何事でも共通することです。それが社会に出たときにできるように今習得しておきたいです。それために見守り支え合い事業で常に意識して地域の人と接したいと思います。

●今回は障害者支援についての講義を受けました。 まず初めに障害者と聞いてどのようなことをイメージするかという問いに私は「なんらかの助けが必要な人」と書きました。障害があることで不自由なことがあると思ったからです。障害者観の移り変わりについては何となくは知っているつもりでしたが、戦時中などは「排除」が当たり前になっており、戦争に行くことができない人は人里離れた所で隔離されていたと聞き驚きました。戦後からは「保護」という形になったそうですが、可哀想なので守ろうという上下関係が作られていたことを知り、保護という言葉を聞くと聞こえは良いかもしれませんが、実際は障がい者の方は苦しい思いをされていたのだろうなと思いました。今は「共生」という形がとられていますが、まだまだ差別的なことが起こっていることも事実だと思いました。

どこからが障害なのかという問題については私もあまり知らなかったのですが、定義は時代によって変わることを初めて知りました。医学モデルと社会モデルはいままでの授業の中で何度か耳にしていましたが、今の日本は社会モデルが実現されているのかなと疑問を持つ部分ありました。すべての障がい者が生きづらさを感じていないと言われれば違うと思ったからです。例えば見た目ではあまりわからない障害を抱えている人は周りの人に理解してもらえない場面もあるということを聞いたことがあります。それでも少しの配慮で誰もが当たり前に暮らせる社会になるのならば、そこを目指して他人事と思うのではなく、誰もがなり得ることだということを理解して考えていく必要があると感じました。

自閉症のカーリーさんの動画を見て実際に自閉症の方を見たことがなかったので興味深かったです。ペアで意思を伝えるロールプレイをしましたが、とても難しかったです。ロールプレイをしてみて気づいたことは伝える方も考えて伝わりやすくする必要はあると思いますが、一番大切なことは聞き手が理解しようとする姿勢だと思いました。 障がい者の苦労は私たちが想像してもしきれないものですが、社会全体で障害に向き合うことでこれまでも良い方向に変移していったようにより良く、誰もが生きやすい世の中になるのではないかと今回の講義を通じて感じることができました。